

Environmental Report



2025 環境保全の取り組み

～地球にも人にも優しい環境企業を目指して～

トヨタ自動車北海道株式会社

目次

	ページ
1. 会社概要	・・・ 2
2. トップメッセージ	・・・ 3
3. 方針・プラン	・・・ 4
4. 取り組み体制	・・・ 6
5. 環境リスク低減の取り組み	・・・ 7
6. CO ₂ 低減の取り組み	・・・ 8
7. 資源循環の取り組み	・・・11
8. 自然・生物多様性保全の取り組み	・・・12
9. 地域の方々と共に	・・・13
10. パフォーマンスデータ	・・・15

私たちトヨタ自動車北海道は

北海道 『北海道環境宣言』に賛同しています

北海道 『北海道グリーンBiz認定制度』において、

「優良な取組」部門 ランク3に登録されています
(環境マネジメントシステムの認証取得)

「創意あふれる取組」部門 3分野で認定されています
(地球を守る心・もったいない心・自然と共生する心)

「先進的な取組」部門 CO₂削減分野で認定されています

苫小牧市『ゼロカーボンいぶり@苫小牧』に参加しています

SDGsへの貢献



1. 会社概要

■ 会社概況

設立：1991年2月8日

資本金：200億円

株主：トヨタ自動車株式会社 100%出資

事業内容：自動車部品の製造

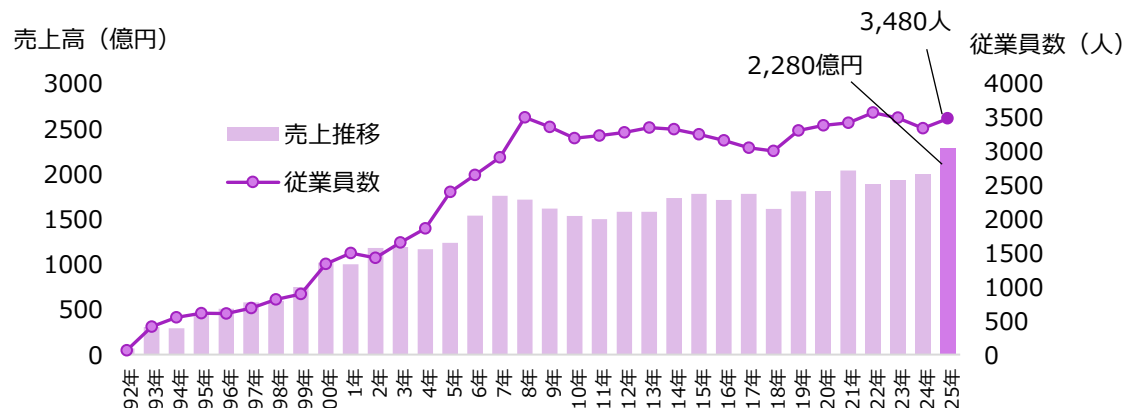
- ・CVT
- ・ハイブリッド トランスアクスル
- ・トランスファー
- ・鍛造部品

売上高：2,280億円（2025年3月期）

用地面積：103萬m²（約31萬坪）

従業員：3,480人（2025年5月1日現在）

■売上高/従業員数



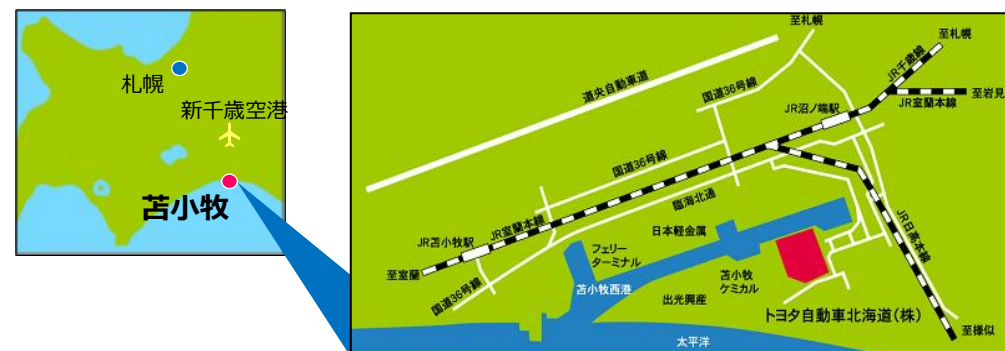
■工場レイアウト



- 1 第1工場（ユニット加工・組付・熱処理）
- 2 第2工場（ユニット加工・組付・鍛造）
- 3 第3工場（プレス・ダイキャスト）
- 4 第4工場（ユニット加工・組付・熱処理）
- 5 第5工場（鍛造）
- 6 本館
- 7 2号館
- 8 原動力棟
- 9 信頼性試験棟
- 10 浄水場
- 11 保安センター
- 12 はすかっぱホール
- 13 トヨタの森
- 14 モノづくり技術センター
- 15 自然林
- 16 はまなすテラス（食堂）
- 17 太陽光発電

■所在地

〒059-1393 北海道苫小牧市字勇払 1 4 5 番 1



2. トップメッセージ

持続可能な社会の実現に向けて



環境保全統括者
専務取締役 今井 光明

日頃より、トヨタ自動車北海道（以下「当社」）の環境保全活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

当社は、持続可能な社会の実現に向けて、環境への責任を企業活動の根幹と位置づけ、積極的に取り組んでおります。会社方針においても、「自主的に環境保全活動に取り組み、環境との調和ある成長を目指す」と定めており、社員一人ひとりが自覚と責任を持って、**「環境リスクの低減」「CO₂排出量の削減」「資源の循環利用」**に全員参加で取り組んでいます。

本報告書では、当社の環境保全に関する取り組み内容をご紹介します。皆様からの率直なご意見やご指導を賜りながら、これまでの活動をさらに強化し、地域社会から信頼される企業を目指してまいります。

3.方針・プラン

■トヨタ自動車北海道株式会社 環境方針

『地球にやさしい企業』として、一人ひとりが自覚と責任を持ち、環境保全活動に積極的に取り組み、SDGs（持続可能な開発目標）の目標・ターゲット達成に貢献します。

1. 地域社会とのコミュニケーションを大切にし、北海道の豊かな自然との共生と生物多様性を保つための活動を積極的に推進します。
2. 環境法令や協定、基準の遵守はもとより、地球環境の汚染予防及び継続的な改善を行い、地域のリーディングカンパニーを目指します。
3. 環境影響を最小化するために、目的・目標を定め積極的に取り組みます。
 - ①工場CO₂ゼロを目指し、日常改善・技術革新・再生可能エネルギー利用を推進します。
 - ②ゼロエミッションを維持し、循環型社会の形成を推進します。
 - ③生産活動の環境影響を評価し、環境負荷物質を低減します。



『トヨタ環境チャレンジ2050』

新たな地球温暖化防止の枠組みであるパリ協定が合意された2015年に、トヨタ自動車株式会社は3つのゼロへのチャレンジと3つのプラスへのチャレンジを発表しました。

当社はトヨタのものづくりの拠点として、この『トヨタ環境チャレンジ2050』を推進し、SDGsの達成へ貢献します。



私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

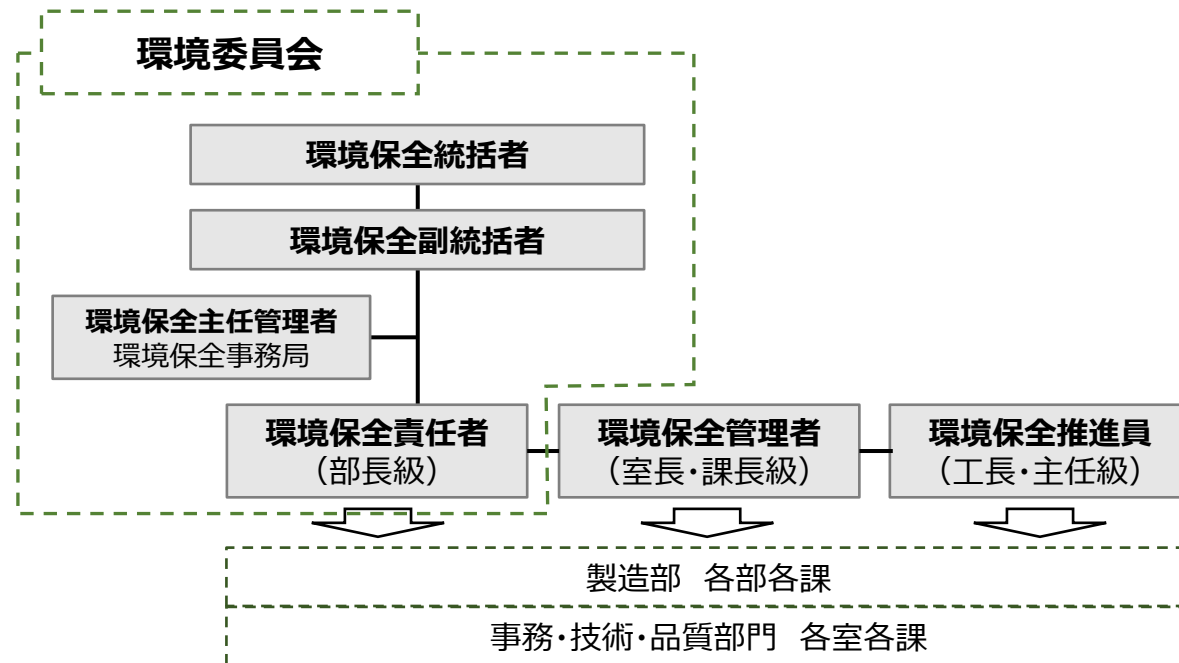
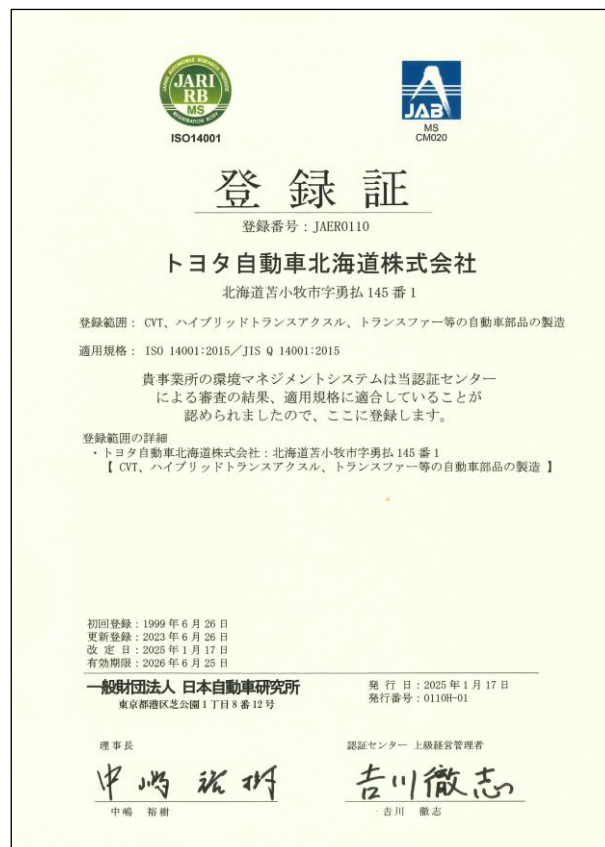
4. 取り組み体制



■ 環境保全推進体制

当社は環境マネジメントシステムに関する国際規格であるISO14001を1999年に認証取得しています。

環境保全活動は環境保全統括者を筆頭に表記の体制で推進しステークホルダーの皆様へ安心と信頼され続ける企業を目指します。



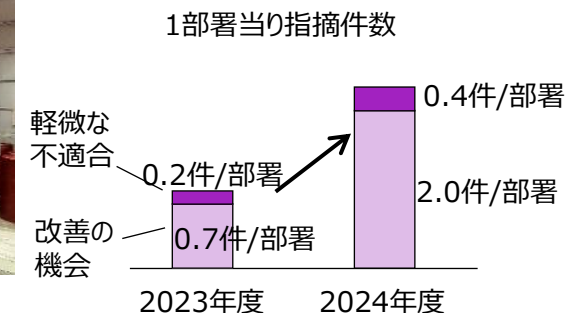
環境保全活動のPDCAが廻っているかを確認するために毎年内部監査と外部審査を実施しています。
今年度の内部監査から実施方法を見直し[①事前文書レビュー導入②監査員固定③監査頻度変更]
より少ない工数で効率的な監査を実施することができました。



外部審査（更新 2024年9月）



内部監査（2025年3月）



4. 取り組み体制



■ 環境保全活動の力量維持

活動を行う上で必要な有資格者数を把握し、適宜資格取得を推進しています。また、新入社員の受け入れ時や各職位階層に応じた環境教育を実施し、環境保全活動に必要な力量の維持に努めています。

● 環境関連の有資格者数

資格名	必要数	有資格者数
公害防止管理者（水質）	2名	11名
“ （大気）	2名	7名
“ （ダイオキシン）	2名	3名
エネルギー管理士	3名	10名

● 環境教育

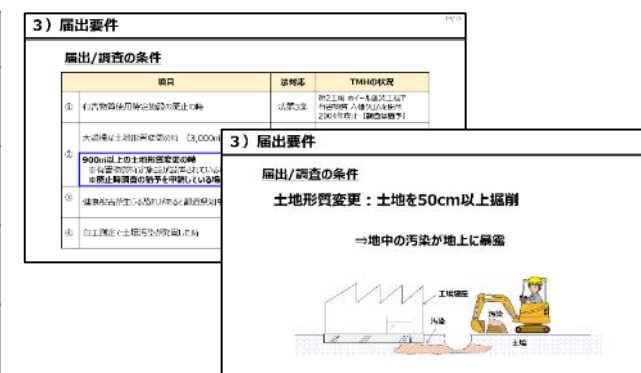
社員の職層ごとに目的に見合った環境教育を実施しています

職層別	教育内容
新入社員 準社員	社会人としての環境問題と環境保全活動の理解、取り組み
ステップアップ	担当エリアの環境ルールを理解と遵守、改善の実施
職制3級	担当チームの環境全般の知識と異常対応を含む実作業の指導・訓練、評価
職制2級	EMSの理解、環境問題の未然防止の取り組み 法令、社内規定項目の維持管理
職制1級	環境管理の仕組み、ルールの確実な運用指導 課全体の目標を踏まえた改善の企画と推進
基幹職	安全・品質・原価・生産活動への環境保全の織り込み 環境取り組みプランの理解と職場運営の実行

● 技術系の特定教育

技術系中心に申請・届出の必要な項目について、法的根拠から教育しています

実施教育名
概要/水質/大気施設
振動/騒音施設
電波/ダイオキシン施設
土壌汚染対策法



土壌汚染対策法の届出教育

5.環境リスク低減の取り組み

■ 異常対応訓練

当社では、法令遵守の徹底と、地域の皆様からのご懸念につながる事象の未然防止に取り組んでおります。特に、異常事態の発生を想定した対応訓練を定期的の実施し、迅速かつ的確な対応力の向上に努めています。

また、6月の環境月間においては、公共水域への油流出防止を目的とした処置訓練を実施し、万が一の事態における適切な対処方法を確認しました。

● 設備の異常処置訓練



● 環境月間 – 雨水路油流入の想定訓練



■ 排水・排出管理

生産活動で使用された汚水や燃焼設備からの排気ガスは、適切な処理と設備管理により、法令で定められた基準を下回る形で排出しています。

排出濃度は分析や計測機器で常時監視しており、原材料や燃料の成分情報も管理に取り入れ、「入口」段階からの環境管理を徹底しています。

また、法定の監視項目については、社外検査機関による第三者測定を実施し、客観的な確認を行っています。



■ 公害防止協定に基づく測定報告

北海道、苫小牧市との公害防止協定に基づき、定期的に、排出ガスや排水などに含まれる規制物質含有量の測定結果を報告しています。

(2024年度の測定結果はP16を参照ください)

また、関係官庁による立入検査や、情報交換を行い連携を図っています。



6.CO₂低減の取り組み

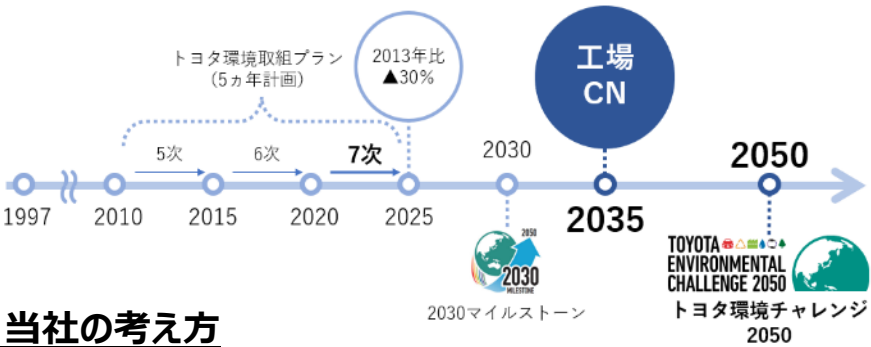


■カーボンニュートラルへの取り組み

●2035年カーボンニュートラル・2050年CO₂排出ゼロに向けて

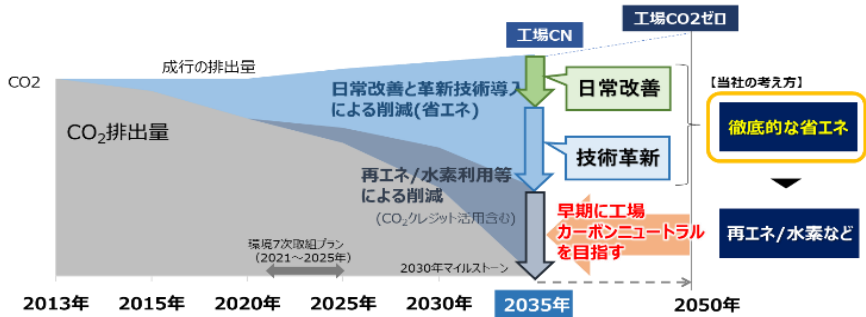
トヨタ自動車株式会社の「トヨタ環境チャレンジ2050」に基づき、長期的には2050年工場の生産におけるCO₂排出量をゼロ※1を、中期的には2035年工場の生産におけるCO₂排出量カーボンニュートラル（CN）を目指しています。

※1 6つのチャレンジの中の「工場CO₂ゼロチャレンジ」



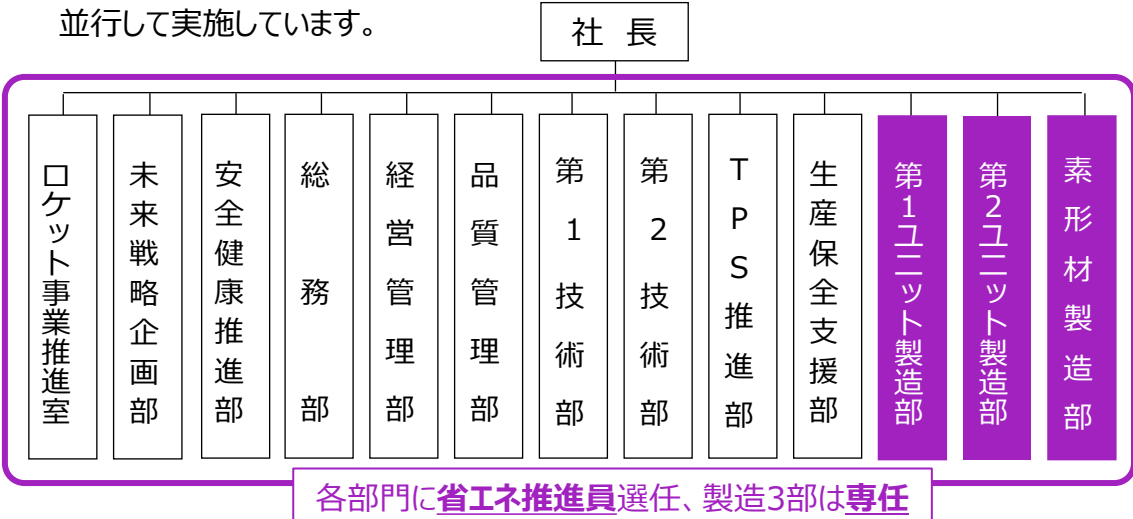
●当社の考え方

今後の生産増加によるCO₂排出量の増加も見込み、日常改善と技術革新による徹底的な省エネを進めたうえで、再生可能エネルギーの導入や水素利活用等により、カーボンニュートラルを達成する計画です。この考えのもと、「みんなの省エネ」を合言葉に徹底的な省エネ、特に全社で取り組むことができる日常改善に重点を置いて取り組んでいます。



●省エネ活動の体制と日常改善の切り口

全社省エネ活動は、以下の体制で実施しています。特にエネルギーをより多く使用する製造3部には「省エネ推進員」を専任し、活動の強力な推進と人材育成を並行して実施しています。



また、日常改善は「6つの心得」を着眼点にアイテムを発掘、一つ一つのCO₂削減効果は小さいですが、全社で地道な活動を実施しています。

心得	着眼点
1 ヤメル	なぜこの設備がいるのか？
2 トメル	動いているだけで働いていないぞ！
3 ナオス	故障で損をしていないか？
4 サゲル	なぜこれだけ要るのか？
5 ヒロウ	もったいない。何とか使えないか？
6 カエル	もっと安いエネルギーはないか？

6.CO₂低減の取り組み

■ESCOチーム発足によるサポート・支援

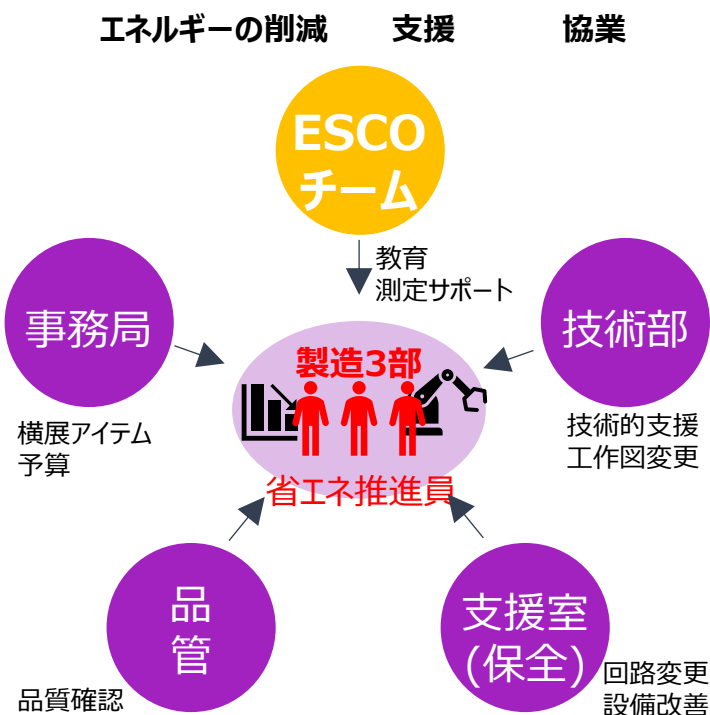
●ESCOチームの役割

2021年1月に、社内の省エネ活動のサポートを目的にESCOチーム※1を発足しました。主な役割は以下のとおりです。

- ①現地現物による現状把握を目的としたエネルギーの測定
- ②測定したエネルギーを見える化し、改善アイテムの発掘につなげるための分析
- ③省エネ人財育成のための教育

各部の省エネ推進員と協力し、現場中心の省エネ（日常改善）活動をサポート・支援しています。

※1 ESCOとは「**E**nergy reduction **S**upport **C**ooperation」の略称



●社内ESCO教育と「熱」教育の追加

2022年1月より、ESCOチームによる社内の省エネ教育を開始しました。昨年までの教育内容は、工場で主に使用されているエネルギーである電気と圧縮エアの2科目としていました。しかし、熱の省エネはまだまだカイゼンの余地があると考え、今年1月から「熱」の教育を追加しました。受講者は教育で学んだ内容を自職場へ持ち帰り、省エネ活動をけん引しています。

熱教育の概要

講義内容

<座学>

- ・熱エネルギーについて
- ・ヒートポンプの仕組みと特性
- ・改善事例紹介

<実技>

- ・測定機器の取り扱い方法



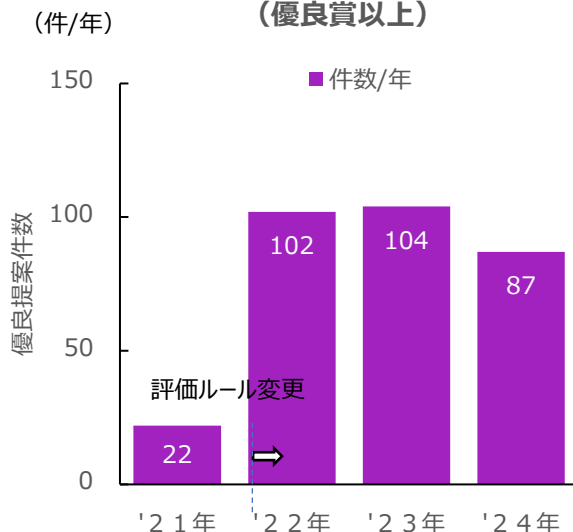
受講者は自職場にある熱利用設備の省エネを検討

6.CO₂低減の取り組み

■ 創意くふう提案活動の活発化

安全や原価改善と同様に環境に関しても従業員から創意くふうが提案されます。省エネ活動活性化の目的で2022年より社内評価ルールの変更を行いました。優秀提案はその定着と共に高い水準の件数を維持しています。ここでは、2024年度の優秀提案の事例を紹介します。

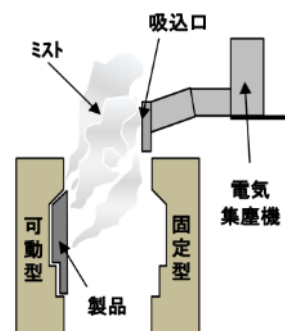
省エネ改善の創意くふう提案実績
(優良賞以上)



● 電気集塵機インバータ値の最適化による省エネ&ミスト濃度低下（着眼点：サゲル）

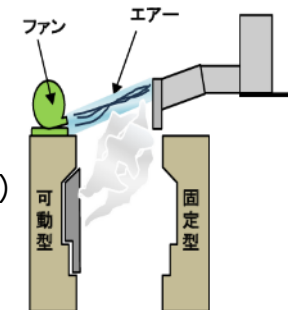
【現状】

- ◆ダイキャストマシンにおけるミスト発生と集塵方法
 - ・ダイキャストマシンの離型時にミストが上空へ発生
 - ・電気集塵機で吸引しフィルターで浄化
- ◆電気集塵機の浄化方法とコスト
 - ・静電気引力でミストを集塵
 - ・50Hz運転時の消費電力 13.86kWh
 - 電気代：2,286,828 円/年
 - Co2排出：56.4 t-Co2/年
 - ミストの濃度：0.32 mg/m³



【改善】

- ① ファン設置により吸引を補助
 - ② インバーター設定50Hz → 35Hzに変更
- ◆増設ファンと集塵35Hz化のコスト
 - 電気代：966,876 円/年
 - (① 138,600 円/年 ② 828,276 円/年)
 - Co2排出：23.4 t-Co2/年
 - (① 3.48 t-Co2/年 ② 19.92 t-Co2/年)
 - ミストの濃度：0.25mg/m³



【効果】

CO₂削減効果▲33 t-CO₂/年

● 油脂取り扱い作業DX化による作業効率化（着眼点：カエル）

【現状】

- ・補給作業ごとに補給箇所と台車を175回/直往復し現地で用紙に補給情報を記入
- ・補給量を集計用紙に転記しパソコンへ入力



【改善】

- ・QRコードを設備に貼付しハンディスキャナーで読取・補給量入力へ変更
 - 用紙記入を廃止し記入時間の削減とミス防止を実現
- ・自動集計ファイルを作成しスキャナー記録データをPC転送へ変更
 - 転記作業の廃止とペーパーレス化を実現



【効果】

- ・A4用紙年間使用量削減 3600枚/年
- ・DX化により安全性向上、品質向上、省人化を実現



7.資源循環の取り組み

■廃棄物低減とリサイクル促進

●ゼロエミッション※1の継続

※1.ゼロエミッション：廃棄物の直接埋立ゼロ

廃棄物の低減とリサイクル促進のため、発生する廃棄物は41種類に分別を行っています。

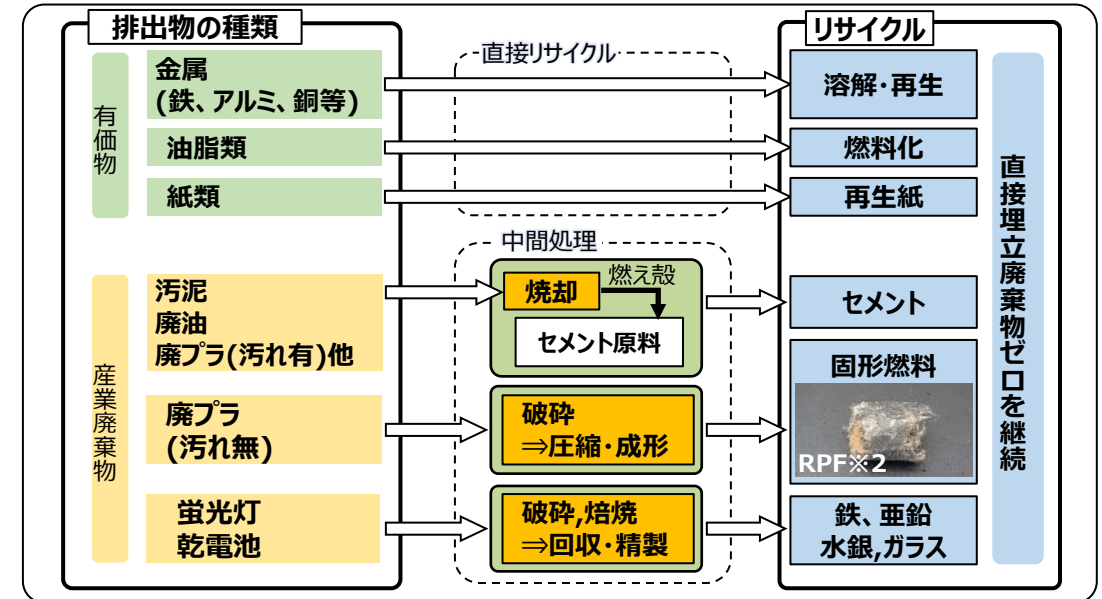
工場では写真の様な『エコステーション』を休憩室近くに設け、分別を徹底しています。この活動により分別された廃棄物は、24種類が直接リサイクルされ、それ以外の産業廃棄物は中間処理を経て再資源化され、直接埋立廃棄物ゼロを継続しています。

また、近隣企業11社が加盟する「苫小牧ゼロエミッションネットワーク」とも情報交換を行いながら、廃棄物低減の方策を検討しています。

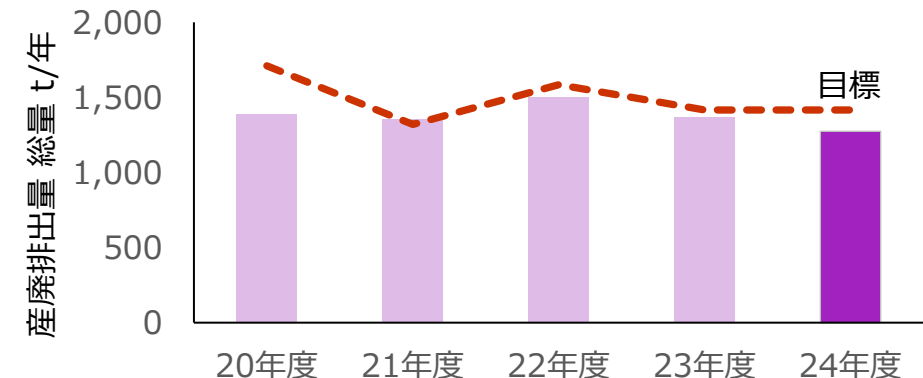


蛍光灯・乾電池の共同回収（苫小牧ゼロエミッションネットワーク共同活動）

●当社のリサイクルフロー



※2. RPF：古紙、プラスチック等を原料とした固形燃料
(Refuse derived paper and plastics densified Fuel)



産業廃棄物排出量の推移

8.自然・生物多様性保全の取り組み



■地域緑化活動

社会貢献活動における環境の取り組みとして、北海道の課題である自然環境保全に対応すべく、道庁が推進する「ほっかいどう企業の森林づくり」へ参画し、2024年5月に北海道勇払郡むかわ町で植樹祭を実施しました。



当社は、道が掲げる「道民ひとり1本植樹・育樹運動」に賛同し、従業員数に応じた本数の植樹を目指しており、2025年7月時点で約2,100本の苗木を植樹しています。



※北海道議会HPより引用

■環境省 自然共生サイト認定



2022年度より生態系調査を行ってきた第2工場北側の緑地が2025年3月14日に環境省自然共生サイトに認定されました。

今後も自然と共生する工場として緑地の維持、保全に取り組んでいきます。



自然共生サイトへの申請内容がQRコードにて確認できます

※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です

9.地域の方々と共に

■ 苫小牧市の脱炭素先行地域

苫小牧市は、二酸化炭素の排出削減を他地域に先駆けて進める環境省の「脱炭素先行地域」に選出されています（計画名：ダブルポートシティ苫小牧の次世代エネルギー供給拠点への挑戦）。



計画概要
環境省HPリンク

トヨタ自動車北海道は、本取組みの共同提案者として計画段階から苫小牧市へ協力しており、2030年の民生部門のCO2排出ゼロ実現に向け、地元のステークホルダーと連携しながら、地域の脱炭素の取り組みを推進しています。

計画概要

- 西部工業基地（港南）エリアの複数の産業施設に大規模な太陽光発電を設置し、産業部門のCO2排出量を大幅に削減する。
- 工場が生産しない休日の余剰電力を隣接する勇払市街地へ小売電気事業者を通じて提供する。



画像引用元) 苫小牧市

■ 環境省水素実証事業

トヨタ自動車北海道は、スパークス・グリーンエナジー & テクノロジー(株)が苫小牧市において進める水素サプライチェーン構築事業（事業名：北海道を水素アイランドへ、電力系統に依存しない大規模再エネ水素サプライチェーン構築実証事業）へ参画しています。



事業概要
スパークス・グループ
HPリンク

本事業は、環境省が公募した「既存のインフラを活用した水素供給低コスト化に向けたモデル構築・実証事業」に採択されており、水素製造コスト低減と地域内の水素利用を通じた需要創出や経済好循環に貢献することを目指しています。

事業概要

- 沼ノ端グリーンセンターの廃棄物発電と太陽光発電の電力を組み合わせ再生可能エネルギー由来のグリーン水素を製造する。
- 製造した水素は高圧水素トレーラーにより市有施設や近隣企業に運搬する。当社ではボイラーやストーブの燃料としての利用を実証中。



水素トレーラー



水素ボイラー

9.地域の方々と共に

■地域の脱炭素と水素利活用イベントへ協力

トヨタ自動車北海道は、地域の脱炭素や水素利活用を促進するため、自治体等が開催する関連イベント等へ積極的に協力しています。

TOMAKOMAI MIRAI FEST 2024



音響機器へMIRAIから給電（苫小牧市）

さっぽろ雪まつり2025



水素の炎のフотスポットを展示（札幌市）



トヨタタイムズ 雪まつり

検索



トヨタタイムズ（YouTube）でも紹介

環境広場さっぽろ



水素の利用事例を展示（札幌市）

脱炭素教育支援事業



市内高校生へ脱炭素教育（胆振総合振興局）

札幌市青少年科学館イベント



水素の利用事例を展示（札幌市）

ゆうふつ花火大会



外部給電でe-モータースポーツ体験（苫小牧市）

むろらんゼロカーボンフェスタ



水素の取組を紹介（室蘭市）

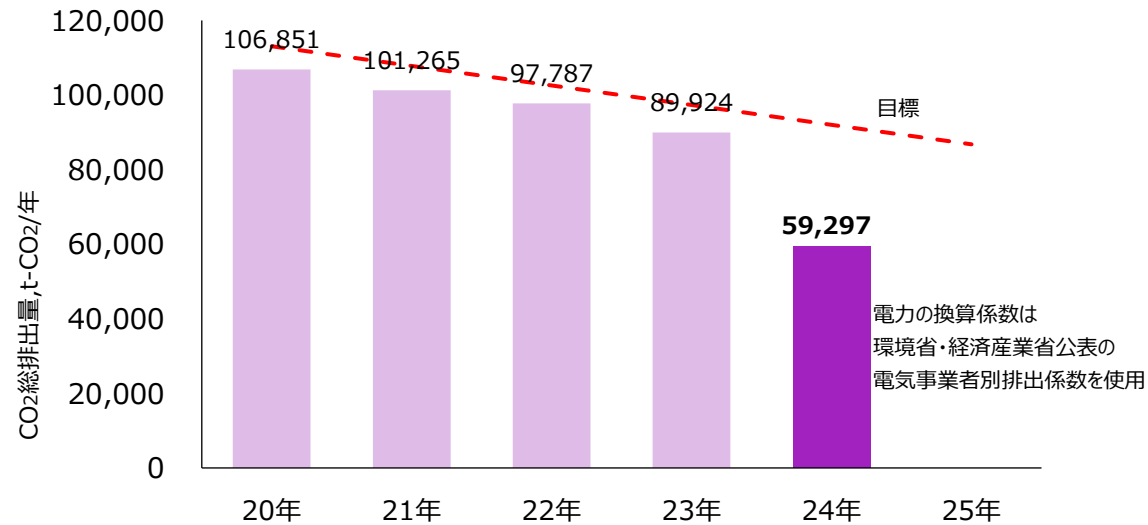
10. パフォーマンスデータ

SDGsへの貢献

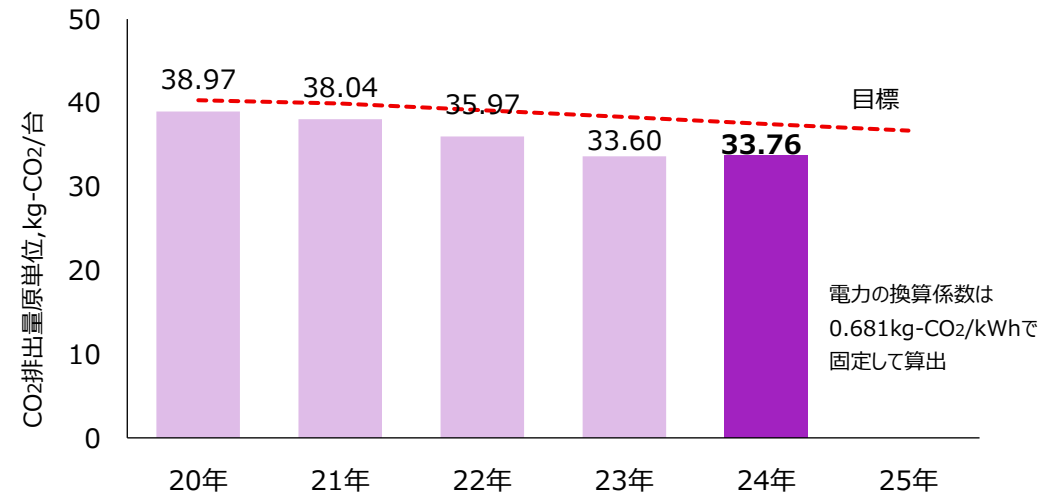


■ 2024年度 環境目標と実績

重点実施項目		目 標	実 績	[単位]	目標比	評価	期 間
環境リスク低減	異常・苦情	ゼロ	ゼロ	[件]	-	○	2024/4-2025/3
CO2低減	総排出量	92,034	59,297	[t-CO2]	61%	○	2024/1-2024/12
	CO2原単位	37.49	33.76	[kg-CO2/台]	90%	○	2024/4-2025/3
資源循環	産業廃棄物	1,414	1,274	[t]	90%	○	2024/4-2025/3



CO2排出量の推移（総排出量） 暦年1月～12月



CO2原単位の推移（1台生産当たりのCO2排出量）

10. パフォーマンスデータ



■ 環境測定結果

● 大気

項目	設備	法基準値	協定値	測定値最大	単位
窒素 酸化物 NOx	炉筒煙管ボイラ	150	120	99.7	ppm
	小型貫流ボイラ	150	—	31	
	ガスエンジン	600	—	180	
	ガスタービン	70	—	51.3	
	ガス浸炭炉	180	140	132.8	
	アルミ溶解炉	180	140	78.5	
ばいじん	炉筒煙管ボイラ	0.25	0.15	0.0075	g/m ³ _N
	小型貫流ボイラ	0.10	—	0.0032	
	ガスエンジン	0.05	—	0.003	
	ガスタービン	0.05	—	0.0021	
	ガス浸炭炉	0.20	0.10	0.0052	
	アルミ溶解炉	0.20	0.05	0.002	
硫黄 酸化物 SOx	炉筒煙管ボイラ	6.42	3	0.8	K値
	小型貫流ボイラ			0.00085	
	ガスエンジン			0	
	ガスタービン			0	
	ガス浸炭炉			0.0025	
	アルミ溶解炉			0	

● その他測定

ダイオキシン類（アルミ溶解炉排ガス）、臭気（敷地境界と排水）、地下水質

● 水質

項目	法基準値	協定値	自主基準値	測定値最大	単位
化学的酸素要求量 COD	160 (120)	25 (20)	20	13.4	mg/L
浮遊物質 SS	200 (150)	25 (20)	20	2	mg/L
pH	5~9	6~8	—	6.7~7.5	—
油分（鉱物油）	5	4	—	0	mg/L
大腸菌群数	3,000	—	—	28	個/cm ³
亜鉛	2	—	—	0.15	mg/L
鉄	10	—	—	0	mg/L
マンガン	10	—	—	0.1	mg/L
フッ素	15	—	—	0.12	mg/L
鉛	0.1	—	—	0.001	mg/L
砒素	0.1	—	—	0	mg/L

上記以外の項目は不検出 ()内は日平均

● 振動・騒音

項目	法基準値	協定値	測定値最大	単位
振動	なし	60	46	dB
騒音		60(昼)	53.5	

10. パフォーマンスデータ

●PRTR対応

PRTR制度※1に基づき、化学物質の移動・排出量の把握を行なっています。

		年 度		
		2022	2023	2024
物質 取扱量 (kg)	トルエン	1,976	1,536	623
	キシレン	1,346	1,047	425
	マンガン	402	327	349
	その他	414	390	202

※1 PRTR制度：(Pollutant Release and Transfer Register)
環境汚染物質排出移動登録制度

●化学物質事前検討制度

環境関連法・安全衛生関連法・消防法等の規制・管理物質を元に
納入(使用)禁止物質を定めて、資材購入時に購入可否判断をする
仕組みを運用しています。

●給排水量の推移

当社は水資源の豊富な地域で操業を行っているため、渇水等の恐れは少ないですが、
将来の水インパクト最小化※2に向けて、給排水量の把握を行っています。

		年 度		
		2022	2023	2024
給水(t)	工業用水	351,999	407,803	371,591
	飲料水	33,430	46,969	47,558
排水(t)	放流水	431,922	421,455	388,739

※2 水環境インパクト最小化チャレンジ
「トヨタ環境チャレンジ2050」の6つの
取組項目の1つで、海や河川に与える
環境負荷を最小化する活動



工業用水ヘッダ



飲料水タンク



社外放流口

その他当社の
情報はコチラ



当社HPリンク

環境保全の取り組み 2025

～地球にも人にも優しい環境企業を目指して～



当社HP

<https://www.tmh.co.jp>



トヨタ自動車北海道株式会社
TOYOTA MOTOR HOKKAIDO, INC.

発行日：2025年7月

発行元：トヨタ自動車北海道株式会社
北海道苫小牧市字勇払145番1

お問合せ：総務室0144-57-2121

編集者：第1技術部 技術統括室 環境G